

# Snoring, obstructive sleep apnea, and upper respiratory tract infection in elementary school children in Japan

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード: 作成者: 北澤, 隆行 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002915">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002915</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2600 号

Snoring, obstructive sleep apnea and upper respiratory tract infection in elementary school children in Japan

日本の小学生におけるいびき、閉塞性睡眠時無呼吸と上気道感染症との関連

北澤 隆行 (きたざわ たかゆき)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、小児の閉塞性睡眠時無呼吸 (obstructive sleep apnea : OSA) の指標と上気道感染症罹患との関連を検討した論文である。小児の OSA、及びその主要な症状の 1 つであるいびきと上気道感染症との関連について検討した研究は少なく、エビデンスはまだ確立されていない。本研究は、東京都内の小学校 1-2 年生の 922 名を対象とした横断的調査である。上気道感染症罹患の調整オッズ比 (95%信頼区間) は、いびきをかかない小児に対して、いびきの頻度が 1-4 回/週の小児で 1.73 (1.16-2.59)、5 回/週以上の小児で 2.82 (1.26-6.28) であった。同様に、主観的に報告されたいびきの大きさと、客観的に評価された音圧レベルは、上気道感染症罹患と有意に関連した。また、上気道感染症罹患の調整オッズ比 (95%信頼区間) は、apnea-hypopnea index (AHI) が 1.0 未満と比較して、AHI が 2.0 以上で 2.65 (1.32-5.31) であり、小児のいびきと OSA の重症度は、上気道感染症罹患と関連することが明らかとなった。なお、鼻咽頭疾患は OSA の原因となる事が知られているが、本関連は鼻咽頭疾患の無い小児に限定した解析でも認められた。

いびきの程度を評価するにあたり、主観的な調査票による報告だけではなく、客観的な評価として気管音データと併せて分析結果を示したことに、研究の独自性が認められる。本研究では、OSA と上気道感染症罹患とが鼻咽頭疾と独立して関連することを明らかにしており、公衆衛生学的に意義のある結果を示した論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。